

評価指標・評価

- 現在の評価が定性的・形式的との反省を踏まえ、きめの細かい評価とメリハリのある交付金配分が必要。そのために、大学の固有のミッションを明確化し、そのミッションの実現に向けた取組の進捗状況を適正に評価できる指標(KPIを含む)の設定が必要。(大学ごとの課題を明確に指摘し次なるアクションにつなげるような評価とすべき)。
- 評価軸の設定に当たっては、研究、教育、地域への貢献などの組み合わせで各機能類型で設定。
- 研究大学については、グローバルな視野で厳格なグローバル評価を課すべき。ただし、問題はどのようにしてそれを実現するか。European University Associationによる評価などの活用も検討すべき。
- 評価指標には成果・結果の視点が不可欠(各種賞の受賞、引用度の高い論文数など)。また、域内外、国内外、大学・研究機関・産業界などのネットワーキング構築などの実績も評価指標に入れるべき。さらに、大学の学生と研究機関、産業界へ人材が流動化されるような仕組みが構築できているかどうかどうも評価の視点として重要。

評価の交付金等配分への反映

- 透明性のある評価と交付金等の配分ルールが必要。
- 改革が進んでいるところを積極的に支援する仕組みとすることが必要。
- 情報公開の徹底が必要。評価の仕方、評価の結果、交付金等の配分への反映などについて情報公開されるべき。欧米等の事例も参考にすべき。

評価の交付金等配分への反映

- 交付金と競争的資金のバランスが重要
- 財源の多元化は重要。交付金、競争的資金のみならず、寄付金、private fundingなどが入りやすい仕組みにすべき(寄付税制の改善を含む)。
- その上で、学長裁量経費の拡大は重要。

機能分化の徹底

- 機能分化を徹底すると同時に、多様性を担保する仕組みとすることが重要。
- 特定研究大学は必要。問題は現状からそこに向けてどう実現するか。既存のシニアの研究員・教員のマインドセットを変革するか、若手の意識を変えていくことが必要。
- 機能分化が固定化につながらず、融合領域への対応も可能となるような仕組みとすべき。
- 橋渡しだけでなく、新しい技術シーズの創出も重要。
- 教育については、世界中の著名な教授の講義を聞こえるようになっている中、どのように優位性を担保するかも重要な視点。
- 地方大学には必ず1つ、2つ強みあり。ただし、地域イノベーションは、地方大学だけでなく、高専、公設試、私学、研究機関、企業等も重要なアクターであり、地方の実情に応じて設計すべき。